

災害情報研究会 R2 年度 第 1 回会議事録

日時： 令和 2 年 4 月 17 日(金) 15:00-17:30

会場： ZOOM にて実施

出席者：(9 名：敬称略・順不同)

市川、高橋、水落、野田、前田、宮角、杉山、中村、上倉

議事

◆今後日本は拡大するか

- ・ 一旦GW頃までに収束して5月後半に第二波が来るのではないか
- ・ 4月下旬まで2W。GWで効果が見えてくるGW明けに解除判断では無いか。
- ・ 検査数が少なく、感染者の把握が不十分なのではないか。まだまだ感染は広がるのではないか。
- ・ GWには三万人になるのではないか。
- ・ 都内の人手は宣言前より減っている。
- ・ 商店街に人が流れて、そこが感染のリスクとなっている。
- ・ 3/28の小池知事の要請が無ければ倍々の感染拡大の可能性があったのではないか。
- ・ 具合悪くても医者に行かない。品川、渋谷も人が多い。スーパーも家族連れが来ている。
- ・ 獣医の見解では「ふん口感染」の可能性もある。
- ・ 朝のラッシュは減っていないが昼はかなり空いている。
- ・ PCR実施数の伸びと感染者数の増加の比較が知りたい。
- ・ 小さな会社の人毎日出勤している。介護など休めない人がいる。
- ・ 社内でも郵務や交代制で出勤の人もいる。
- ・ スーパーは来客が多くバイトが少なくなっている。
- ・ 高級食材が料亭に出られず、スーパーに良いものが回ってきている。
- ・ レジ関係の人が増えない。物流を増やせないなので品物が回らない。
- ・ スーパーによっては時短営業している。鮮魚調理の外国人労働者が帰ってしまったので人が足りない。
- ・ 7-11で求人すると仕事が無くなったフリーランサーが応募してきた。
- ・ 欧米は土足文化のために感染が広がったのではないか。
- ・ PCR陽性で無くなった方の他に、他の病気で亡くなった方の検査が行われていないのではないか。
- ・ 山梨県は感染者数は少ないが、病床が足りなくなり100%を超えている。
- ・ PCRは精度も低く、抗体検査などの活用もあるのではないか。
- ・ GW頃がピーク(2-3万人)として、その後の展開が描けるか？
- ・ 一人三日間入院すると感染防護用品が70セット必要となる。重症者を優先して治療す

る体制を重視すべきではないか。

◆欧米が大変な状況の中で「出口戦略」を検討し始める価値観について

- ・ 日本では出口戦略があるのだろうか
- ・ 治療薬ができる頃が出口なのでは無いか。対処薬から治療薬が出てくると治療も進む。
- ・ ワクチンが出て普通のインフルエンザのようになったら「元の世界」になるかも知れない
- ・ 「プレ出口」の状態では9-12ヶ月かかってしまう。長期間の経済影響での起業破綻をどう抑えるかが難しい。
- ・ インシデントと時間軸のタイムラインを政府として作成しているのだろうか。
- ・ 戦略的戦いは日本人は不得手。データの共通化もされていないので、戦略の元になるデータがあるのだろうか。
- ・ 今回の感染症対策のトップが誰か判らない。
- ・ 再保険引き受けについても欧米は共通のプラットフォームを持っている。
- ・ 災害時の被害情報を集めて判断するBCの戦略の構図と同様で、必要なデータが無いのではないか。
- ・ 行政のシステムはデータの活用について考えられていない。
- ・ 日本政府は発生していることについて言わない。明確にしない。